

H20年度共同研究(公募型)一覧

整理番号	申請者	所属機関		研究テーマ	連絡担当教員
1	田村 直之	神戸大学	学術情報基盤センター	求解困難な制約最適化問題のSAT変換による解決に関する研究	井上 克巳
2	諏訪 正樹	慶應義塾大学	環境情報学部	身体的メタ認知を促す即時フィードバックソフトウェアの開発	佐藤 健
3	岩橋 直人	情報通信研究機構	第二部門・知識創成コミュニケーションセンター	能動的ハンドインタラクションによる実世界言語コミュニケーションの学習に関する研究	佐藤 健
4	新田 克己	東京工業大学	大学院 総合理工学研究科	法的論争における論証構造と発言戦略のモデル化	佐藤 健
5	下村 芳樹	首都大学東京大学院	大学院 システムデザイン研究科	Web情報を用いた設計知識情報データベースの拡充手法に関する研究	武田 英明
6	中澤 巧爾	京都大学	大学院 情報学研究科	簡単共通部分型理論とラムダ計算のモデル化について	龍田 真
7	関川 拓也	(株)数理システム	科学技術部	社会的知能エージェントシミュレーションのための身体・物体モデルの記述および、シミュレータ内部での計算に適した形状の自動作成に関する研究	稲邑 哲也
8	湊 真一	北海道大学	大学院 情報科学研究科	グラフを用いた圧縮データ構造に基づくパターン発見アルゴリズムの研究開発および関連技術調査	宇野 毅明
9	塩浦 昭義	東北大学	大学院 情報科学研究科	組合せ最適化問題の理論とアルゴリズムに関する研究	宇野 毅明
10	越野 広雪	理化学研究所	先端技術開発支援センター物質構造解析チーム	NMR化学シフト予測コンピュータシステムCAST/CNMRのための実践的なハロゲン化有機化合物データベースの構築と応用研究	佐藤 寛子
11	劉 少英	法政大学	情報学部・情報科学研究科	形式仕様に基づくプログラムの自動テスト技術に関する研究	中島 震
12	脇田 建	東京工業大学	大学院 情報理工学研究科	階層的クラスタリング手法を用いた大規模社会ネットワークの対話的視覚化の研究	細部 博史
13	志築 文太郎	筑波大学	システム情報工学研究科	マルチタッチインターフェースに基づく大規模3次元情報の対話的可視化手法	細部 博史
14	吉永 努	電気通信大学	大学院 情報システム学研究科	予測スイッチングによる高性能並列計算ネットワークに関する研究	鯉淵 道紘
15	西 宏章	慶應義塾大学	理工学部	エンドホストを利用したネットワークシステムの研究	鯉淵 道紘
16	影浦 映	東京大学	大学院 教育学研究科	テキスト空間(コーパス)からの語彙空間の復元手法の研究、および特性のモデル化	相澤 彰子
17	正田 備也	長崎大学	工学部情報システム工学科	テキストの時間情報を利用したマルチビジュアル・モデルによる注目すべき話題群の時間的変遷の分析	高須 淳宏
18	太田 学	岡山大学	大学院 自然科学研究科	論文文書画像からの書誌情報抽出よWebを利用した電子図書館サービスに関する研究	高須 淳宏
19	阿久津 達也	京都大学	化学研究所	情報検索および統合のための半構造データからのパターン抽出アルゴリズムの研究	高須 淳宏
20	小松 孝徳	信州大学	ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点	「エージェントの外見から予想される機能」と「実際のエージェントの機能」との違いが、ユーザーの行動に与える影響の実験的考察	山田 誠二
21	小野田 崇	(財)電力中央研究所		情報工学と人間工学を利用した「慣れ」に起因するヒューマンマンファクターの抽出	山田 誠二
22	青山 俊弘	鈴鹿工業高等専門学校	電子情報工学科	文献アノテーションの作成と共有に関する研究	山地 一禎
23	山本 幹雄	筑波大学	システム情報工学研究科	特許文書における統計的機械翻訳技術の評価と協調的研究基盤資源の構築	神門 典子
24	加藤 恒昭	東京大学	大学院 総合文化研究科言語情報科学専攻	視覚的情報アクセス技術の基盤構築と評価に関する研究	神門 典子
25	齋藤 ひとみ	愛知教育大学		情報探索行動の認知モデルの構築とその応用に関する研究	神門 典子
26	宇津呂 武仁	筑波大学	大学院 システム情報工学研究科	wikipedia概念体系を利用した多言語巨大ブログ空間の索引付け、および多言語ブログにおける言語対照情報分析	神門 典子
27	小川 賢	神戸学院大学	経営学部	情報セキュリティレベルの向上に関する研究	岡田 仁志
28	朴 唯新	宇部工業高等専門学校	経営情報学科	メディアコンバージェンス時代におけるビジネスモデルと政策システムの検討	上田 昌史
29	池田 謙一	東京大学	大学院 人文社会系研究科	ICTによる既存紐帯の維持がパーソナルネットワークを通じた異質な情報への接触に及ぼす効果の検討	小林 哲郎